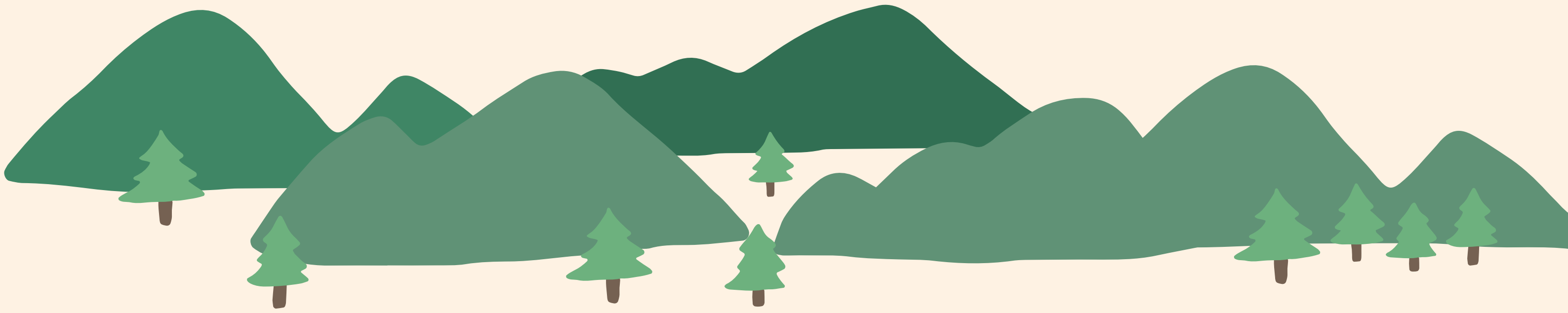


ShinSei

SDGs Report 2022

真誠グループSDGsレポート

トップメッセージ

真誠グループは、2008年12月に「CSR憲章」「CSR憲章に基づく行動規範」を制定し、翌年２月に社員集会の席上で、全社員に向けて企業の社会的責任を果たすための行動を促すことを宣言しました。

具体的なCSR活動の取り組みを模索していた矢先の2011年３月11日に東日本大震災が発生し、自然災害の恐ろしさを再認識したと同時に、企業の社会的責任・社会に果たす役割とは何かを今まで以上に真剣に考えるきかっけとなりました。

その翌年は弊社が創立50周年を迎えた年でもあり、新たにコーポレートメッセージとして「すべての人を笑顔にしたい」と定め、同時に外部主催の「ステークホルダー・ダイアログ」事業に参加し、そこで多くのステークホルダーからの期待や要望に触れ、弊社が行うべきことが少しずつ見えてきました。

こういった流れが、SDGs宣言につながっています。
真誠グループは企業倫理の制定にあたって、全社員が真心と誠実を持って法令を遵守し、健全で公正な企業活動を行うことを、すべてのお客様・お取引先・関係者の方々にお約束すると共に、「企業の社会的責任」を果たすために、「CSR憲章・行動規範」を定め、これらを間違いなく遂行することを誓いました。

今までの活動の延長線上として、全社員とのコミュニケーションによって特定した、社会と真誠グループにとって重要性の高い課題を掲げ、これらの課題解決と企業価値向上に向けて活動をすることで、持続可能な成長を社会と一緒になって取り組んでいきたいと思います。

SDGsの目標設定には、E（資源・環境課題）・S（社会課題）・G（組織統治課題）が挙げられています。
これら定めたゴールを見据えたターゲットに向けて様々な取り組みを行うことを、全社員と共に誓い、そして社内外に向けてお約束致します。
企業として利益を追求した事業活動を行うことは当然のことですが、その事業活動によって生じる様々な課題（食品ロスやエネルギー問題等）に目を向けることも当然企業の務めであるべきです。
持続可能な社会と共生するための必要不可欠な活動を行う企業であるために、現在はもとより今後に向けて真誠グループはあり続けます。

そして、真誠グループがすべてのステークホルダーから愛される企業になるよう活動してまいります。
どうか引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長　冨田 博之

『真誠グループ SDGs宣言』の制定について

株式会社真誠は、国連が提唱する「SDGs（持続可能な開発目標）」に賛同し、SDGsの達成に向けた取り組みを強化するため、「真誠グループSDGs宣言」を制定しました。宣言の公表により、SDGsを社員、お客様、お取引先、地域社会などのステークホルダーに広げ、持続可能な社会の実現に向けた活動を実践していきます。

真誠グループ SDGs宣言（サステナビリティポリシー）

人も地球も、健康に生き続けられる食のあり方を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる社会をつくる。

2022年7月28日
株式会社 真 誠
代表取締役社長　冨田 博之

	重要課題	取組方針及び具体的な取り組み	関連するSDGs
環境への取組	食品ロス削減	**生産やサプライチェーンにおける食品ロスの削減を推進します。** ◎生産過程における原料ロスの削減及び歩留りの向上による食品廃棄物発生量の削減 ◎ごまの生産過程で生じる残渣の飼料・肥料としての再資源化 ◎賞味期限の延長による事業内及び家庭内食品ロスの削減 ◎関係企業との情報共有による在庫最適化の推進	2, 12, 15
環境への取組	資材ロス削減	**生産から流通のプロセスで発生する資材ロスを削減します。** ◎包装資材の廃棄物発生量の削減 ◎関係企業との情報共有による梱包資材の見直し	12
環境への取組	環境に配慮した食品生産	**電気エネルギー及び水資源の利用効率向上により、脱炭素社会の実現に向けて取り組みます。** ◎全社照明のLED化、工場内の人感センサー設置などによる電気エネルギーの利用効率向上 ◎工場の排水及び排煙の濾過・浄化を徹底した環境に負荷を与えない生産活動の推進 ◎節水仕様の洗浄機導入などによる水資源の利用効率向上	6, 7, 13
社会への取組	国内外の子ども支援	**途上国への食料支援活動を行い、貧困や飢餓の撲滅に取り組みます。** ◎国際連合世界食糧計画WFP協会を通じた学校給食支援や家庭への食料配給支援 ◎子ども食堂との協働による食支援活動の推進 **未来を担う子どもたちへの食育活動を推進し、心と体の成長支援に貢献します。** ◎食の大切さや楽しさを学べる食育プログラム「ごますり体験」の推進	1, 2, 4
社会への取組	健康価値の追求	**健康に配慮した製品の提供を通して、安全、安心な食の健康文化を広めていきます。** ◎機能性表示食品や栄養機能食品などの製品開発の推進 ◎健康に寄与する製品の病院食や学校給食などへの提供 ◎大豆たん白など新素材を活用した製品開発の推進	3, 9
社会への取組	産地との共生	**環境負荷を低減した製品の提供を通じて、ごまの産地の農業及び生産者の生活の持続可能な発展に貢献します。** ◎フェアトレード認証ごま製品の普及による生産者の支援 ◎有機認証ごま製品の普及による土壌への環境負荷低減の促進	1, 2, 10, 15, 16
社会への取組	食の安全と安心	**食品の安全と品質に関する予防及び監視により、安全・安心な製品を提供することで、ステークホルダーとの信頼関係の構築に努めます。** ◎FSSC22000認証の遵守（株式会社真誠インダストリアル・パーク 関ヶ原工場・名古屋工場）	9, 12, 16
経済への取組	ごまの新たな価値の創造	**ごまの可能性を求めて研究を進め、社会的意義のある新たな価値の創造に取り組みます。** ◎バイオテクノロジーによる先例のない新たな特性を持つ品種の作出、生産者と消費者にとって付加価値の高いブランドごまの製品開発の推進 ◎廃棄物や未利用資源の活用を目指す研究及び得られた知見を用いた製品開発の推進	3, 9
経済への取組	働き方と多様性	**働きがいの向上や生活の充実感を感じられる職場環境づくりに取り組みます。多様な人材がやりがいを持って働き、活躍できる社会の実現に向けて取り組みます。** ◎障がい者、高齢者、外国人の雇用機会創出 ◎育児休業の制度利用推進 ◎有給休暇の取得推奨	5, 8, 10

2030年「ありたい姿」の実現に向けて

SDGs活動のあゆみ　2021年10月〜2022年9月

2021年

- **10月**　SDGsの専任部署を新設
- **11月**　社内で活動説明会を開催
- **12月**　全社のSDGsに関連する自社活動を棚卸
  社内広報「SDGsニューズレター」の発行

2022年

- **1〜3月**　全社各部門でグループワークを開催
  「優先課題」を選定
- **4月**　重要課題（マテリアリティ）を特定
- **5月**　経営者と社員の対話の場となる「座談会」を開催
  重要課題やビジョンを共有
- **6月**　トップインタビュー　社員インタビュー
- **7月**　**『真誠グループ SDGs宣言』の制定**
- **8〜9月**　2030年「ありたい姿」の実現に向け、
  全社各部門で目標設定の検討会を開催

真誠グループは、「健康文化を世界に広げ社会に貢献する」のミッションを掲げ、SDGs宣言の制定により、すべての人が笑顔で暮らせる持続可能な社会の実現に貢献することを誓いました。
このたびの真誠グループSDGsレポート2022は、環境・社会・経済の重要課題に対する具体的な取り組みにチャレンジしていく姿勢を、すべてのステークホルダーの皆様にお伝えしていきたいと考えております。

SDGsのターゲットに貢献するための目標設定につきましては、2022年8月から全社各部門でディスカッションを行いながら設定しているところです。
レポートには、2030年「ありたい姿」の実現をコミットする数値目標や活動目標の記載がありませんが、第２期目となる2022年10月〜2023年９月は、設定した目標に沿って取り組み、その活動を報告いたします。

SDGsコンパス

SDGsの取り組みがスタート

2021年10月にCSR・SDGsに関わる専任部署を新設。
2030年「ありたい姿」の実現に向けた取り組みが始まりました。

全社の各部門で説明会を開催し、
社員が基本的な考え方や取り組む意義を学びました。

社内向けの広報活動として「真誠SDGsニューズレター」を
毎月発行することにより社内の理解を深めています。

SDGsニューズレター

SDGsに関連する自社活動の棚卸

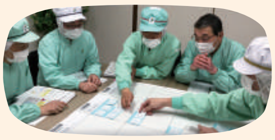
分野	取り組み内容	キーワード	本部	部署	関連するSDGsターゲット						現在の活動	補足説明
エネルギー	使用量削減	省エネ	生産本部	両工場	7.3	9.4	12.4	12.6	13.1	13.2	毎月、管理職会議で活動目標の報告	5年で5%の削減。電気・LPGの使用数と生産数量の比
		省エネ	営業本部	近畿営業部	7.3	11.6	13.1				公共の交通機関を使用	営業車の使用頻度を削減
		省エネ	営業本部	北海道東北営	3.9	7.3	9.4	11.6	13.1		リース車の使用	1500cc車でガソリン消費が減
		省エネ	経営管理本部	総務チーム	7.3	9.4	13.1				本社 リアルタイムで使用電力量を監視	
		省エネ	経営管理本部	総務チーム	3.9	7.3	9.4	11.6	13.1		2021年リース車両更新時　燃費16.6km→21.6kmの車両を選定	
		節電	営業本部	関東営業部	7.3	13.1					使用していない機器・照明は電源オフ	
		節電	営業本部	関東営業部	7.3	13.1					エレベーターを極力使用しない	
		節電	営業本部	関東営業部	7.3	13.1					パソコン、中断時はスリープモード使用。	
		節電	生産本部	両工場	7.3	13.1					工場の屋根を遮熱塗装	電気代の削減
		節電	生産本部	名古屋工場	7.3	9.4	13.1				蛍光灯からLEDへ変更（工場）	
		節電	生産本部	名古屋工場	7.3	9.4	13.1				一部LED蛍光灯の人感センサー	
		節電	生産本部	名古屋工場	7.3	13.1					トイレの蓋を閉める	
		節電	生産本部	名古屋工場	7.3	13.1					休憩時のコンベア等の機械停止	
		節電	業務本部	特販チーム	7.3	13.1					（東京）エレベーターの不使用	事務所内階層の移動は階段
		節電	営業本部	関東営業部	7.3	13.1					空調設定温度の見直し、階段利用	
		節電	営業本部	北海道東北営	7.3	9.4	13.1				照明のLED化	
		節電	営業本部	北海道東北営	7.3	13.1					昼時間の電気節約	3分の1の照明で対応
		節電	営業本部	近畿営業部	7.3	13.1					不要と思われる電気消灯	
		節電	業務本部	胡麻の郷	7.3	9.4	13.1				現在1部のみLED照明	
		節電	営業本部	関東営業部	7.3	13.1					両面・モノクロ・集約印刷	
		節電	営業本部	中四国営業部	7.3	13.1					カラー印刷を極力減らす。	白黒印刷対応可時はカラー印刷を避ける
	エネルギー転換	燃料電池	営業本部	全営業部	3.9	7.3	9.4	11.6	13.1			
		燃料電池	営業本部	九州営業部	3.9	7.3	9.4	11.6	13.1			
		天然ガス	生産本部	両工場	7.3	9.4	11.6	13.1			重油、灯油から天然ガスに切換え	焙煎機
		天然ガス	生産本部	名古屋工場	7.3	9.4	11.6	13.1			焙煎機の燃料をA重油から都市ガスに変更	
		再生可能エネルギー										
資源	使用量削減	節約	経営管理本部	総務チーム	12.5	15.2					コピー用紙を白色度の低いも(	本社のみで用紙サイズA4のみ
		節約	業務本部	食品安全管理	9.4	12.5					会議資料のデータ閲覧・保管	後で見直す機会が殆どない資料

全社で環境・社会・経済の側面からSDGsと関連性のある238の業務を洗い出し、SDGsの17のゴールと169のターゲットを紐付け棚卸を行いました。

SDGsの優先課題を決定

生産本部・営業本部・業務本部・経営管理本部の各部門で、優先課題を決めるグループワークを開催。
当社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼす影響がどの程度なのか、真誠グループに及ぼす影響がどの程度なのか など社員同士、意見交換をしながらグループワークを行いました。

関ヶ原工場


名古屋工場

経理チーム

企画・購買チーム

＼ グループワークのマッピング ／

重要課題(マテリアリティ)の特定

社員間のグループワークから導き出された優先課題を集め、
冨田社長が重要課題(マテリアリティ)を決めるワークショップに参加。

2030年「ありたい姿」の実現に向けて、環境や社会、当社に関わる全てのステークホルダーとどう向き合っていくのかをテーマに実施しました。

重要課題を
検討する冨田社長

当社の「現在の姿(現在地)」から、企業理念により方向性が示され、右図にあるような重要課題(マテリアリティ)が特定されました。

真誠グループの重要課題

環境への取り組み

- 食品ロス削減
- 資材ロス削減
- 環境に配慮した食品生産

社会への取り組み

- 国内外の子ども支援
- 健康価値の追求
- 産地との共生
- 食の安全と安心

経済への取り組み

- ごまの新たな価値の創造
- 働き方と多様性

経営者と社員の想いをつなぐ「SDGs座談会」

重要課題について経営者の想いを聴き、
10年後、20年後の会社像(ありたい姿)を
共に考える場となる「SDGs座談会」を開催。

座談会の中で語られたすべての言葉が
“ありたい姿”の方向性を示すビジョンの種となり、
真誠グループSDGs宣言の制定へとつながりました。

特販部　中部営業部

オリジナルキャラクター
シロゴマンとクロゴマン

©やなせスタジオ

トップインタビュー

2022年6月16日、2030年「ありたい姿」の
実現に向けた取り組みへの想いを語る
トップインタビューを実施。

売上や利益追求だけでなく、社会に役に立つ視点を持つことが必要

企業活動を継続するためには利益を追求しなければなりません。

しかしながら、その前に「良き企業市民たれ」という考え方があり、
いかに社会の役に立つかという視点が必要です。

乾物はエシカルな食品

我々の扱う「ごま」は栄養価が高く健康に良い食材です。

企業活動自体が社会に役立つ側面を持っているため、
社員も社会貢献の気持ちを持ちやすい土壌があります。

SDGsへの取り組みや新たな社会貢献活動が相乗効果となり、
さらに社員のモチベーションを高められるのではと期待しています。

また、「ごま」は常温で保管や輸送ができるため、
「地球環境に優しい食品」とも言えます。

世界的に脱炭素の動きが加速しているなか、
常温で保管できて輸送できる乾物を見直す動きも
出てくるのではないかと思います。

時代の変化に合わせ自らも変化を

私が生きてきた時代と若い社員とでは、
ジェンダーをはじめとしたSDGsの諸問題について感性も考え方も違います。

今まで自分がやってきたことを是として行動するだけでなく、
今の時代に合わせた変化をしていく必要があります。

すべての人を笑顔にするという信念を次の世代に

「すべての人を笑顔にしたい」というコーポレートメッセージには、
人々が健康的で笑顔溢れる生活を送ってほしい、
との思いが込められています。

ごまを売るだけではなく、
人を笑顔にするという信念を次の世代に伝え、
健康を支えるための具体的なミッションを掲げて実践する。

その延長線上に、
社会に役立つ未来の真誠の姿があると考えています。

社員インタビュー

生産本部・営業本部・業務本部・経営管理本部の各部署から８名の社員が参加。
2030年「ありたい姿」の実現に向けて、どのような会社にしたいのか、
環境や社会のためにできることは何か、
当社に関わる全てのステークホルダーに喜んでもらうために
具体的に何をしていくのか などをテーマとしてインタビューを行いました。

コロナ禍を通じて、家庭での健康意識は着実に高まっています。機能性表示食品や栄養機能食品、有機ごま製品の提供により生活者の健康を支えていきたいです。
また、フェアトレード製品が買いやすくなる環境も地道に整えていきたいと思います。

営業本部　中部営業部

大豆たんぱくに着目した製品開発を進めています。当社が独自に保有するごまの表面に味付けをする技術を生かし、大豆たんぱくにベーコン味をつけた製品などを開発しています。
肉の代わりに、たんぱく質を摂れる健康的な食習慣の創出につなげたいと考えています。

業務本部 企画・開発チーム

請求書や帳簿関連の業務で紙を使用する場面は多いです。ペーパーレスを実現するためにも様々な業務を電子化し、業務効率を高めるデジタル化を推進しています。
それにより生産性を向上させて、働きやすい職場環境づくりに貢献したいです。

経営管理本部　経理チーム

工場では排水および排煙の濾過・浄化、加工過程で発生する残渣の再資源化などに取り組んできました。
また、外部のサプライヤーとも協力し、資材の梱包材を変更するなど省資源化にも取り組んでいます。
これからも環境に配慮した生産活動を行っていきます。

生産本部　名古屋工場

持続可能な原料調達、自社ブランド強化を目的として、新品種作出とその栽培法などのソフト面強化を目標とした研究活動を行っています。また、ごま製品の製造過程では様々な種類の廃棄物が発生します。その利用方法についての研究・製品開発も行っています。利用の可能性があるものを資源として大切に使いながら、人々の健康に貢献したいと考えています。

業務本部　基礎研究チーム

当社の食育プログラム「ごますり体験」は、子どもの五感を刺激でき、火も刃も使わない安全な食育活動として好評をいただいています。主に幼稚園などを中心に展開してきましたが、スーパーでの実施など活動の場が増えています。食育活動を通じて食の大切さや楽しさを伝え続け、未来ある子どもたちの健康を支えていきたいです。

業務本部　営業支援チーム

当社お客様サービス室に寄せられる貴重な声には、新製品開発のアイデアが隠れていることがあります。お年寄りの方からの声を活かしたユニバーサルデザインなどにも取り組んでいます。お客様の声に真摯に耳をかたむけ、改善を重ね続けていくことで、ずっとお客様に求められる存在でいたいです。

業務本部　品質管理チーム

生産では洗浄工程などで多量の水を使用しています。節水仕様の設備を積極的に導入するなど、水資源の効率的な利用や使用量の削減に努めています。
また、ごまの加工過程で多くの残渣が発生します。この残渣には多くの栄養が含まれており、肥料や飼料として再資源化を進めています。

生産本部　関ヶ原工場

環境への取り組み

食品ロス削減

生産やサプライチェーンにおける食品ロスの削減を推進します。

- 生産過程における原料ロスの削減や、歩留まりの向上による食品廃棄物発生量の削減を推進します。
- ごまの生産過程で生じる残渣の飼料・肥料としての再資源化に努めます。
- 賞味期限の延長や年月表示化により、事業内及び家庭内食品ロスを削減します。
- 関係企業と情報共有により、在庫の最適化を推進します。

関ヶ原工場

名古屋工場

選別工程における食品ロス削減の取り組み

原料のごまが当社倉庫に届いた後、最初に石・小枝・葉など夾雑物の混じり物を取り除く選別を行います。
その工程で良品ごま(食品として使えるごま)だけを選別していますが、取り除いたものの中にも良品ごまが混じってしまいます。
名古屋工場では、取り除いた中に混じっている良品ごまを減らす取り組みをテスト的に進めています。

原料のごまをロータリーシフターと呼ばれる篩(ふるい)にかけて選別する工程で、
モーターの回転速度を２パターン設定し比較するテストを実施(期間:2022年７～８月)。
計18回のテストで最適な設定を見つけ出し、良品ごまの廃棄(食品ロス)を480kg削減することができました。

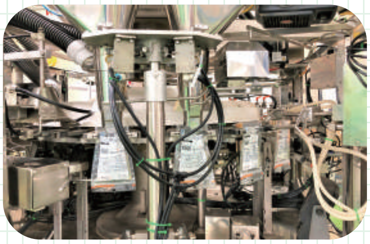
ロータリーシフター

資材ロス削減

生産から流通のプロセスで発生する資材ロスを削減します。

- 生産から流通のプロセスで発生する資材ロスを削減します。
- ごまの充填時に発生する包装資材廃棄物発生量の削減や、梱包資材の見直しによる省資源化にも取り組んでいます。

充填機



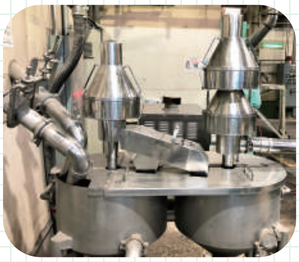
環境に配慮した食品生産

電気エネルギー及び水資源の利用効率向上により、脱炭素社会の実現に向けて取り組みます。

- 全社照明のLED化や工場内の人感センサー設置などにより、電気エネルギーを効率的に利用しています。
- 工場の排水及び排煙の濾過・浄化を徹底し、環境に負荷を与えない生産活動を推進しています。
- 節水仕様の洗浄機導入などによる、水資源の利用効率向上に取り組んでいます。

人感センサー付きLED照明

節水仕様の洗浄機



ごまの洗浄機を節水仕様に変更

ごまの生産工程では、各種選別機を使用して植物の茎・枝葉・石などの雑多な異物(夾雑物)を取り除きます。
次の洗浄工程で大量の水を使用していたことから、2016年から2021年にかけて4台の洗浄機を節水仕様に変更しました。
従来(変更前)の洗浄機と比較すると、水の使用量が約2/3程度まで抑えられています。

社会への取り組み

国内外の子ども支援

途上国への食料支援活動を行い、貧困や飢餓の撲滅に取り組みます。

- 国際連合世界食糧計画WFP協会（以下、国連WFP協会）を通じた学校給食支援や家庭への食料配給支援に取り組みます。
- 国内の貧困問題の解決に向け、子ども食堂との協働により食支援活動を推進してまいります。

©WFP/Rein Skullerud

皮むきタイプ
いりゴマ 80g

国連WFP協会とのつながり

当社では2005年に国連WFP協会の評議会に入会し評議員となりました。
同協会が推進している学校給食支援「レッドカップキャンペーン」に参加し、主力製品の「皮むきタイプいりごま」シリーズなどを対象商品として、消費者参加型の寄付活動を継続しています。

未来を担う子どもたちへの食育活動を推進し、心と体の成長支援に貢献します。

- 食の大切さや楽しさを学べる食育プログラム「ごますり体験」を推進します。

2015年に子ども教育の専門家とのつながりが生まれ、新たな食育の場となる「ごますり体験授業」がスタート。五感を使い楽しく食のプロセスにかかわれる「ごますり体験」を普及していくことにより、子どもたちの心と体の成長に寄与する活動を推進しています。

2022年６月には、全国規模の食育イベント「第17回食育推進全国大会inあいち」に出展。展示ブースでのミニごますり体験、保育士シンガーソングライターによるコンサート＆食育体験授業を実施しました。

真誠ホームページ「ごますり体験してみませんか？」

子ども食堂と食育イベントを共同開催

佐藤醸造（愛知県あま市）、愛知調理専門学校（愛知県名古屋市）、ママのホンネ研究所（愛知県名古屋市）などで組織し、愛知県の野菜摂取量増加を目的とした「あいち野菜でつながるプロジェクト」の活動が2015年にスタート。

2021年10月、わいわい子ども食堂（愛知県名古屋市）とのつながりから共催の食育イベントを実施しました。2022年も11月５日に“めざせクッキングマスター！子どもだけで楽しめる料理教室”を愛知調理専門学校で開催。

名古屋市内の小学３～６年生の子どもたち33名が参加し、ご飯の炊き方などを学んだり、五平餅風おにぎり・ナムル・味噌汁の調理を楽しみました。これからも子どもたちに、食の大切さや作る楽しさを実感できる場を提供してまいります。

健康価値の追求

健康に配慮した製品の提供を通して、安全、安心な食の健康文化を広めていきます。

- 機能性表示食品や栄養機能食品など、健康に配慮した製品の開発を推進します。
- 健康に寄与する製品を病院食や学校給食などへ提供してまいります。
- 大豆たん白など新素材を活用した製品の開発を推進します。

だし香る
ごまあえの素 49g
機能性表示食品

高たんぱく
きなこ 80g
栄養機能食品

保健機能食品の製品開発

2015年に機能性表示食品制度がスタートしたのをきっかけに、健康に配慮した「保健機能食品」の開発を進めています。2019年に加工ごま業界で初となる機能性表示食品「だし香る ごまあえの素 49g 機能性表示食品」を発売しました。血圧が高めの方の血圧を下げる効果のあるGABAを配合したごまあえの素は、多くのお客様からご好評をいただいております。

2020年には、たんぱく質とカルシウム・ビタミンＤなどの栄養素を配合した「高たんぱくきなこ 80g 栄養機能食品」を発売。これからも健康な暮らしに役立つ製品づくりを続けていきます。

産地との共生

環境負荷を低減した製品の提供を通じて、ごまの産地の農業及び生産者の生活の持続可能な発展に貢献します。

- フェアトレード認証ごま製品を普及することにより生産者を支援します。
- 有機認証ごま製品を普及することにより、土壌への環境負荷低減につながる農業を促進します。

フェアトレードで生産者を支援

2019年に公正な取引を促進する国際フェアトレード認証を取得し、厳正な基準に従って調達されたごまを製品化しました。
適正な購入価格の保証やプレミアムの支払いを行うことにより、生産者の生活の持続可能な発展を支援しています。

パラグアイのフェアトレード農地

食の安全と安心

食品の安全と品質に関する予防及び監視により、安全・安心な製品を提供することで、ステークホルダーとの信頼関係の構築に努めます。

- FSSC22000認証を遵守し、食品安全を含めた品質保証体制の維持・向上に努めます。
（株式会社真誠インダストリアル・パーク 関ヶ原工場・名古屋工場）

品質保証体制の維持・向上

2015年３月、真誠インダストリアル・パーク関ヶ原工場、名古屋工場において、国際的な食品安全マネジメントシステム「FSSC22000」を取得。
原料調達から設計開発、製造工程、出荷に至るまで、食品の品質保証体制の維持・向上を継続的に実施しています。

経済への取り組み

ごまの新たな価値の創造

ごまの可能性を求めて研究を進め、社会的意義のある新たな価値の創造に取り組みます。

- バイオテクノロジーによる先例のない新たな特性を持つ品種の創出や、生産者と消費者にとって付加価値の高いブランドごまの製品開発を推進します。
- 廃棄物や未利用資源の活用を目指す研究及び得られた知見を用いた製品開発を推進します。

基礎研究の追求

ごまの新たな機能性を網羅的に発見し、関与成分を解明する活動を続けています。
さらに他の食品への展開も模索し、新たな柱となる製品づくりの基盤に活かします。

働き方と多様性

働きがいの向上や生活の充実感を感じられる職場環境づくりに取り組みます。

多様な人材がやりがいを持って働き、活躍できる社会の実現に向けて取り組みます。

- 障がい者、高齢者、外国人の雇用機会を創出します。
- 育児休業の制度利用を推進します。
- 有給休暇の取得を推奨します。

育児休暇の取得

積極的に育児に関わっていきたいと考える社員が増えており、2022年は女性１名、男性４名の社員が育児休暇を取得しました。これからも環境の整備に取り組み、仕事と育児の両立を支援してまいります。

健康経営の取り組み

真誠グループは、ステークホルダーと一体となって健康経営を推進し、働きがいの向上や生活の充実感を得られる良好な職場環境づくりに努めることを宣言します。

- 健康経営優良法人2023の認証取得に向けて取り組んでいます。

健康宣言チャレンジ事業所
認　定　証
株式会社　真誠
認定日　令和４年７月１４日
貴社を「健康宣言チャレンジ事業所」として認定します
全国健康保険協会 愛知支部
支部長　戸田

全国健康保険協会より、「健康宣言チャレンジ事業所」の認定を受けました。
（認定番号:2306915　認定日:令和４年７月14日）

自転車通勤
〜 エコ通勤の実践 〜

CSR・SDGs担当者の声

私は自宅から会社までの往復７kmを自転車で通勤しています。
2021年10月から始め、１年間の総走行距離は1400kmを超えました。
自転車通勤の良いところは、車や電車などの通勤と比べて地球環境に優しいだけでなく、四季折々の風景や空気感を体全体で感じることができたり、体力の維持向上にもつながるところです。
そして、微力ではありますが道路渋滞の解消など、地域にも貢献できていると思います。

コーポレートメッセージ

すべての人を笑顔にしたい

真誠グループのコーポレートメッセージ「すべての人を笑顔にしたい」は、
一人でも多くの人が笑顔になれば、私たちも笑顔になれる、
そして、世界中に笑顔を広げていきたいとの想いを表現したものです。

この“すべての人”は、SDGsの原則である「誰一人取り残さない」と共通する概念であり、
わたしたちは、社会の中で善良たる企業市民として存在しなければならないと考えています。

真誠グループは、「健康文化を世界に広げ社会に貢献する」のミッションを掲げ、
その信念を社員一人ひとりが持ち、人も、地球も、健康に生き続けられる社会を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

企業理念

真友の理想とする理念は「真心と誠実を貫き通す」ことにある。
人間を幸せにする健康を商品に託し、販売を通じて、健康文化を
世界に広げていきたい。
そして、人々の健康を心から願い、その事自体に喜びを見出し、
その達成に情熱を持ち続けよう。

会社概要

名　　称	株式会社 真誠
本社所在地	〒481-8526　愛知県北名古屋市片場新町29 TEL：0568-23-3311 FAX：0568-22-4245
創　　立	1961年2月15日
代 表 者	冨田　博之
業務内容	ごま製品及び即席食品の製造販売
関連会社	株式会社 真誠インダストリアル・パーク 株式会社 真誠プランニング

編集後記

SDGsレポートにある環境・社会・経済の取り組みだけでなく、社員間のグループワーク・座談会・インタビューなど、SDGsのビジョンを策定するまでの、対話を通じたプロセスにも注目していただきたいです。
そして、未来を担う若い世代の声を大切にしたレポート制作を、これからも継続していきたいと思います。
これまでの制作にあたり、ご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

WEBアンケート

ご意見・ご感想をお聞かせください。

真誠グループSDGsレポート2022をご覧いただき、誠にありがとうございました。
より良いレポートを制作していくために、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

こちらから
ご回答を
お願いします。

ShinSei

株式会社 真誠

〒481-8526　愛知県北名古屋市片場新町29
TEL:0568-23-3311　FAX:0568-22-4245
https://www.shinsei-ip.ne.jp

FSC® C100107
GREEN PRINTING JFPI
P-B10023
Carbon Offset

【レポート報告対象期間】2021年10月～ 2022年９月
【発行】2022年12月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことであり、
2015年９月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された国際目標です。

17のゴールと169のターゲットから構成され、2030年までに持続可能で
「誰一人取り残さない」より良き世界を目指しています。